

2020年度第4四半期決算説明会
主な質疑応答

● 全社

Q：物流のリスクと部材不足の影響をどの程度通期予想に織り込んでいるか教えて欲しい。

A：物流の混乱は、上期中は継続し、下期にはやや改善する前提であるが、楽観はしていない。

部材不足に関しては、プリンターは不足部材を代替品に切り替えるなどの対応をしており、今回の予想に対しては問題ない。

しかし、足元の需要はさらに強くなっており、それに対してはやや足りない状況。

プロジェクターは、足元で影響が出ており、今回の予想に織り込んでいる。今後も状況の注視をしつつ対応していく。

Q：足元の工場の稼働には、COVID-19 影響があるのか。

A：工場は問題なく稼働している。

Q：市場競争環境や販売プロモーションなどの販管費の執行に関する考え方を教えて欲しい。

A：市場環境に関しては、上期は足元の状況が継続するが、下期は、需要も平常化し、物流なども改善することで、販売価格も下がっていくことを想定している。

プロモーション費用などを含めた販管費は2020年度よりは増加させるが、COVID-19 影響が発生する以前の状態には戻さない。営業活動の効率化などを行い、金額では2020年度より増えても、販管費率は2019年度より落とすという前提。例えば、北米での大容量インクタンクモデルは、広告宣伝活動で認知度が上がっているが、供給状況を注視しつつ、戦略的に販売プロモーションをコントロールしていく。

Q：2021年3月末の従業員数が増加しているが、その要因を教えて欲しい。

A：主に、海外の製造部門の従業員が増加している。

需要が高い一方で、流通在庫が足りていない状況であるため、増産対応のために従業員は増加している。

また、COVID-19 対応で、平常時よりも多めに従業員の確保を行っている。

● ホーム・オフィスプリンティング

Q：SOHO・ホーム向け IJP の平均販売単価が上昇しているようだが、在宅印刷需要が高まる中、例年よりも高性能な商品のニーズが高まっているということなのか。

A：単価は、需給バランスの影響で、同等のプリンターの比較においても従来よりも価格が上がっている。

単純に高スペックの商品が売れているということだけでなく、家庭での印刷枚数が増加している中で、より多くの印刷をするのに適している大容量インクタンクモデルのニーズが高まっていると考えている。

● 商業・産業プリンティング

Q：完成品ビジネスの2021年度予想の前提を教えて欲しい。

A：完成品ビジネスは、新たなラインアップも追加できていることで、2020年度の後半は、市場回復以上に売上収益を回復できた。

2021年度も新たな領域にラインアップを広げ、確実に売上収益を伸ばしていけると考えている。